◆消化器科　　医　長　築村哲人

2008年度の消化器科のスタッフは常勤医師１名。マンパワーの不足は内科医師、非常勤医師、外科医師の応援により補ってきた。消化器外来は週２回であり、肝臓外来を熊本大学医学部附属病院から派遣の非常勤医師が週１回担当した。

検査実績

(件)

上部消化管(処置を含む)	1,382
下部消化管(処置を含む)	409
ERCP(処置を含む)	20
腹部超音波	2,242

治療実績

(件)

胃ポリペクトミー	6
大腸ポリペクトミー	44
胃 EMR(内視鏡的粘膜切除術)	1
大腸 EMR(内視鏡的粘膜切除術)	1
食道静脈瘤治療(EVL,EIS,APC)	1
内視鏡的止血術	8
異物除去	5
食道狭窄拡張術(ステント、バルーン)	29
PEG 造設	40
PEG 交換	37

主な消化器疾患入院症例数(主病名のみで重複なし)

(例)

逆流性食道炎	2
マロリー・ワイス症候群	1
食道・胃静脈瘤	3
胃腺種	1
胃ポリープ	6
胃癌	2
(出血性)胃十二指腸潰瘍	16
小腸出血	1
大腸ポリープ	44
大腸血管異形成	1
大腸 LST	1
大腸癌(腺腫内癌を含む)	9
大腸憩室出血	5
感染性腸炎	13
イレウス（サブイレウスを含む）	10
虚血性大腸炎	4
大腸憩室炎	2
肝障害	5
Ｂ型急性肝炎	1
自己免疫性肝炎	1
肝硬変	9
肝性脳症	5
肝細胞癌	14
胆管細胞癌	1
胆嚢・胆管炎	9
総胆管結石	11
胆管癌	2
急性膵炎	6
膵臓癌	13
その他	58

昨年度よりマンパワーが減少したにもかかわらず、診断・治療内視鏡件数ともに現状を維持した。上部消化管検査、胃ポリペクトミー、胃EMR、食道狭窄拡張術、PEG造設、PEG交換などは増加した。

その他症例が最も多いが、この中には誤嚥性肺炎でPEG造設した症例、骨髄異形成症候群などが含まれた。次に大腸ポリープ、消化管出血、肝細胞癌、感染性腸炎、膵臓癌、総胆管結石、イレウスなどの症例が多かったが、消化器全般多岐にわたっていた。大腸癌症例は腺腫内癌４例を含み、内視鏡的切除し得た大腸腫瘍の担癌率は６％であった。また、肝障害の中にウイルス関連血球貪食症候群、白血病などの稀な血液疾患が含まれた。消化器癌化学療法症例が増加する傾向を認めた。